

地域連携室 “あざれあ” 便り 第101号

9月

大型台風が列島を吹き荒れ、不安な日々を過ごされた方も多い事でしょう。防災意識を高めたい9月です。

今回は、「がん患者さん・家族・支援者のつどい ころの駅舎」の開催100回記念イベントについてご報告します。



「ころの駅舎」

Anniversary Event



がん患者さん・家族・支援者のつどい ころの駅舎は、8月22日で開催100回を迎えました。当日は、前半はユーフォニアムとピアノの演奏で癒しのひと時を過ごし、後半は映像で100回を振り返りました。

演奏会では、ユーフォニアムの優しく穏やかな音色に心が落ち着き、ピアノの軽やかで洗練された演奏に魅了されました。



後半は、「ころの駅舎」の12年間を、15分間の映像で振り返りました。広島県の緩和ケア事業の一環として始まった「ころの駅舎」ですが、今では参加されるがん患者さんやご家族が主体となり、地域に根付いた唯一無二の集いに成長しています。

看護師などを目指す高校生や大学生に対して、患者さんやご家族が体験を語る取組も、

「ころの駅舎」ならではの活動の一つです。「自分たちの経験が、何かのお役にたてるなら。」と、自らの体験を積極的に語ってくださいます。学生たちにとっては、病気についての理解を深める貴重な機会になっています。

また、乳がん患者さんの発案で医療用の帽子づくりも行っています。助成金を申請し、今までに300個以上の帽子を製作しました。布地の素材や形などにも工夫をこらしています。出来上がった帽子は広島県内のがん診療連携拠点病院に無料配布し、患者さんに喜んでいただいています。

「ころの駅舎」の旅路は、参加される皆さんと共にこれからもどこまでも続きます。

